

## I. 分野別目標と施策



### 目標1 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている

#### 1 めざす姿

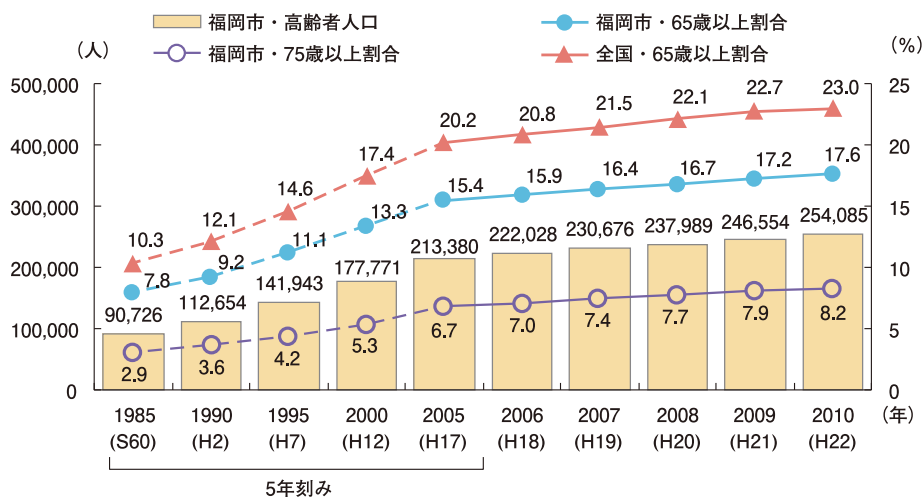
- ユニバーサルデザインの理念によるまちづくりが進み、誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちになっています。一人ひとりが互いに人権を尊重し、国籍や年齢、性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合いながら、いきいきと輝いています。
- 多くの市民が、元気に歳を重ねながら、知識や経験を生かし、社会の担い手、支え手として意欲的に社会参加し、活躍しています。支援を必要とする人々が適切な福祉サービスを受け、誰もが安心して快適に、笑顔で暮らしています。
- 市民が文化芸術やスポーツ・レクリエーションを楽しんでおり、心豊かに充実した生活を送っています。
- 多様な保育サービスが充実したゆとりある子育て環境の中、安心して子どもを生み、育てています。子どもたちが、自ら学ぶ意欲と志をもち、将来に夢や希望、目標を抱きながら、いろいろな世代の人とのふれあいや、さまざまな経験、学習を通じ、心豊かにたくましく成長しています。

#### 2 現状と課題

- ① 福岡市には多様な人々が生活しています。「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの理念に基づき、ハード、ソフトの両面からのまちづくりに取り組み、誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちを実現する必要があります。特に、社会的に弱い立場に置かれている人々への配慮が大切です。
- ② 人権尊重意識が暮らしの隅々に十分に浸透していません。お互いの個性や違いを理解し合い、すべての人が支え合うまちを実現する必要があります。  
また、性別による固定的な役割分担意識を解消し、女性に対するあらゆる暴力を根絶するとともに、さまざまな意思決定過程への女性の参画を促進し、男女が共に家庭や仕事、地域活動などに参画していく環境づくりが求められています。

- ③ いつまでも健康でいきいきと暮らしていくために、生活習慣病予防をはじめ、健康づくり・予防対策が不可欠です。また、高齢化が進む一方、歳を重ねても健康で、社会参加に意欲的な高齢者も増えています。高齢者が経験を生かし、活躍できる社会づくりが必要となっています。
- ④ 文化芸術は、暮らしや人生の豊かさを高め、人々の創造性を育む重要な要素であるとともに、まちの楽しみやにぎわいを創出するものでもあります。このため、より多くの人が文化芸術を楽しみ、参加しやすい環境をつくることが重要です。
- ⑤ スポーツ・レクリエーションは、子どもから高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しむことができ、心身の健康や体力維持に寄与するほか、生きがいや自己実現の場としての期待も高く、気軽に親しめる場や環境の充実が求められています。
- ⑥ 高齢化の進展に伴い、支援や介護を必要とする市民は今後ますます増加することが予測されます。また、障がい者数が増えているほか、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯も増加しており、さまざまなニーズに応じた福祉サービスの充実が必要です。

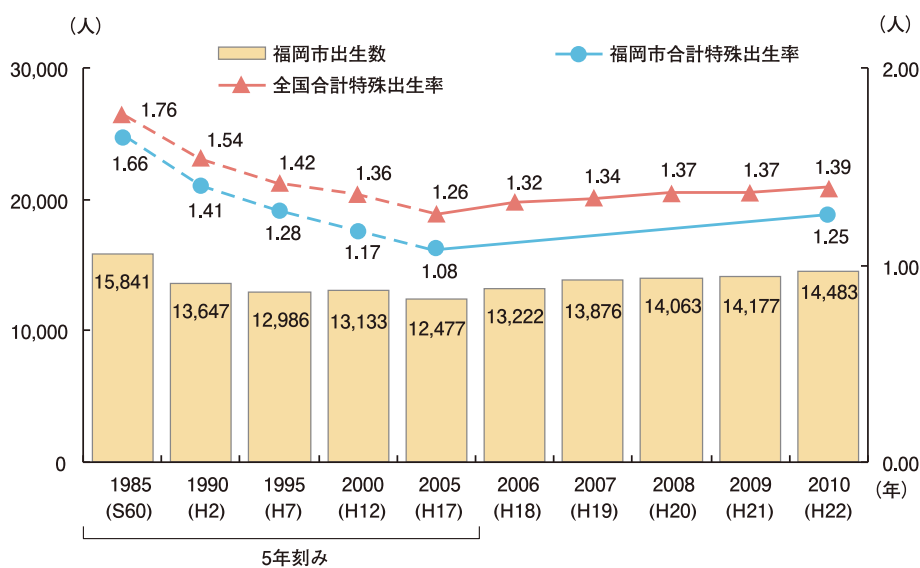
■ 福岡市の高齢者人口・割合の推移（1985年～2010年）



資料：国勢調査  
 (注)2006年～2009年は、推計人口(各年10月1日現在)  
 (注)構成の算出に当たっては総数から年齢不詳を除外している

- ⑦ 出生数は将来的に減少傾向となることが見込まれています。また、児童虐待相談件数が増加しており、約6割の保護者が子育てに負担感や不安感を抱えているほか、働き方の変化などに伴い保育ニーズが多様化しています。安心して働き、子どもを生み、育てられるよう、子育て環境の充実を図る必要があります。
- ⑧ 子どもを取り巻く環境が変化し、教育課題が多様化する中、子どもの学力・体力の向上や、人との交流、体験の機会の確保が課題となっています。将来の福岡市を担う子どもたちを、家庭や学校、地域をはじめ、社会全体で育てていく必要があります。
- また、ニートやひきこもり、不登校など、社会生活を営む上で困難を抱える子ども・若者への支援が課題となっています。

■ 福岡市の出生数・合計特殊出生率推移（1985年～2010年）

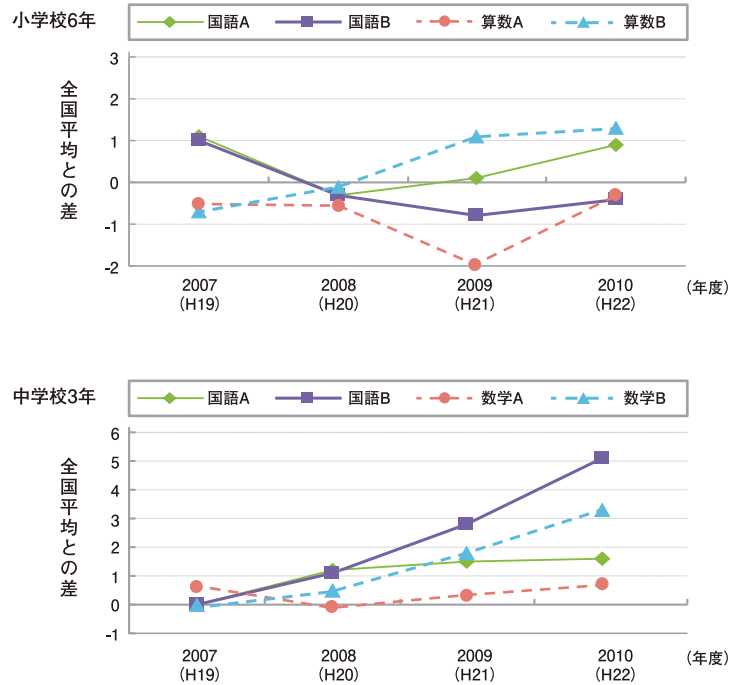


資料：厚生労働省「人口動態統計」、福岡市子ども未来局

(注) 合計特殊出生率は1人の女性が一生の間に生む子どもの数(平均値)(政令指定都市は5年おきの調査)

■ 全国学力・学習状況調査結果の全国平均正答率との差

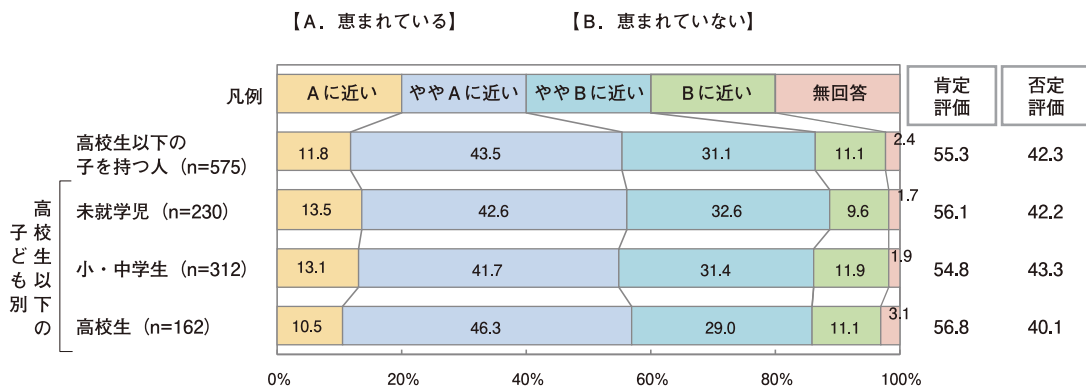
(単位：ポイント)



資料：福岡市教育委員会

(注) A…主に「知識」に関する問題 B…主に「活用」に関するも問題

■ 地域の小中学生が、さまざまな遊びや体験学習をする場や機会についての評価  
(高校生以下の同居家族別)



資料：総務企画局「福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査(平成24年度)」

### 3 施策及び成果指標



#### 施策1-1 ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり

##### 施策の方向性

ユニバーサルデザインの理念(※1)に基づいた、誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちの実現をめざし、すべての人が安全で快適に利用できるバリアフリー(※2)のまちづくりを進めるとともに、市民に対してユニバーサルデザインの考え方を広げ、思いやりの心を育みます。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
ユニバーサルデザインの概念の理解度 (ユニバーサルデザインという言葉の意味を知っている市民の割合)	44.9% (2011年度)	70%
ユニバーサルデザインの取組みへの評価 (ユニバーサルデザインの取組みが進んでいると思う市民の割合)	30.5% (2011年度)	65%

(※1)ユニバーサルデザインの理念：年齢、性別や国籍、障がいの有無等を問わず、すべての人が自由に快適に利用でき、行動できるような思いやりあふれる配慮を、まちづくりやものづくりなどのあらゆる場面で、ハード・ソフトの両面から行っていこうとする考え方。

(※2)バリアフリー：高齢者や障がいのある人などが社会生活をしていく上で障壁(バリア)となるものを除去(フリー)すること。歩道の段差解消や勾配の改善、鉄道駅におけるエレベータの設置など。



### 施策1-2 すべての人の人権が尊重されるまちづくりと男女共同参画の推進

#### ■ 施策の方向性

すべての人の人権が尊重される社会の実現に向け、同和問題をはじめ、あらゆる人権問題の解決を図るため、人権教育・啓発に取り組みます。

また、男女共同参画意識の浸透を図るため、男性・子ども・若年層を含め、あらゆる人が男女共同参画の必要性を共感できるよう、地域と連携し、啓発活動を推進します。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
一人ひとりの人権が尊重されていると感じる市民の割合	65.9% (2012年度)	80%
男女の固定的な役割分担意識の解消度 (「男は仕事、女は家庭を守るべき」という固定概念をもたない市民の割合)	男性57.8% 女性65.5% (2012年度)	男性75% 女性80%



### 施策1-3 一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり

#### ■ 施策の方向性

市民のライフステージに応じた自主的な健康づくりを支援するとともに、医療体制の充実、こころの健康づくりの推進など、市民が心身共に健康に生活できる環境整備を進めます。また、高齢者の就業や起業、ボランティアなどの社会参加の場を創出するなど、アクティブエイジング(※)を推進し、医療や介護に頼らなくても健康に活躍するアクティブシニアを増やします。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
健康に生活している高齢者の割合 (60歳以上で「健康で普通に生活している」と回答した市民の割合)	44.0% (2010年度)	50%

(※)アクティブエイジング：高齢社会の中で、人々が生涯にわたって健康に暮らし、安全が確保され、市民として社会に元気に参加できる「生涯現役社会づくり」のこと。



### 施策1-4 心豊かに文化芸術を楽しむまちづくり

#### ■ 施策の方向性

すべての市民が心豊かに文化芸術を楽しみ、それが観光客にとっての楽しみにもつながるような、文化芸術の環境を整備します。

また、推進にあたっては観光、教育、福祉、地域コミュニティなどの分野との連携を深め、まちづくりと一体となった文化芸術の振興を進めます。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
文化芸術を鑑賞する市民の割合 (過去1年間に1回以上文化芸術の鑑賞をした市民の割合)	61.6% (2012年度)	75%
文化芸術活動を行う市民の割合 (過去1年間に1回以上文化芸術活動を行った市民の割合)	13.5% (2012年度)	25%



### 施策1-5 スポーツ・レクリエーションの振興

#### ■ 施策の方向性

子どもから高齢者、障がいのある人など、すべての市民が、心身共に健康で豊かな生活を営むことができるよう、生涯にわたって身近なところで気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりを進めます。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
身近なスポーツ環境に対する満足度 (スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合)	58.3% (2012年度)	70%
スポーツ活動をする市民の割合 (スポーツを「する」活動を週1回以上行っている市民の割合)	49.0% (2012年度)	60%



## 施策1-6 すべての人が安心して暮らせる福祉の充実

### ■ 施策の方向性

高齢になり介護が必要となっても、住み慣れた家庭や地域で安心して暮らせるよう、市と関係機関が連携し、保健・医療・介護・福祉サービスを適切に組み合わせた支援ができるシステムの構築などを進めます。

また、障がいのある人の地域での自立と社会参加への支援を充実し、障がいの有無によって分け隔てられることがない共生社会の実現をめざします。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
福祉の充実に対する満足度	42.4% (2011年度)	65%
障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じている市民の割合	33.2% (2012年度)	65%





## 施策1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり

### ■ 施策の方向性

家庭、学校、地域、企業、NPO(※1)などと連携し、児童虐待など子ども(※2)に関するさまざまな問題に対する相談体制や地域全体での子育て支援の充実を図り、すべての子どもと子育て家庭を見守り育みます。また、多様な保育サービスの充実を図るとともに、ワーク・ライフ・バランス(※3)を推進し、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに取り組みます。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
子育て環境満足度 (福岡市が子育てしやすいまちだと感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)	60.0% (2012年度)	70%
保育所入所待機児童数	893人 (2012年度)	0人 (2014年度)

(※1)NPO[Nonprofit Organization] : 政府・自治体や企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで、医療・福祉、環境、国際協力・交流など社会的な公益活動を行う民間非営利組織・団体。法人格を持たない団体、ボランティア団体を含む。

(※2)子ども : この計画では、原則としておおむね18歳未満を「子ども」と定義する。

(※3)ワーク・ライフ・バランス : 仕事と生活の調和。老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、さまざまな活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態。



## 施策1-8 自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成

### ■ 施策の方向性

基本的な生活習慣を身につけ、自ら学ぶ意欲と志をもち、心豊かにたくましく生きる子どもの育成をめざした教育に取り組むとともに、教育環境の整備を進めます。また、いじめ、不登校などに対応する体制を整備し、社会全体で子どもをはぐくむ「共育」を推進します。

また、さまざまな体験活動の場の充実を図るなど、子ども・若者の自立心や社会性の醸成と健全な育成への取組みを進めるとともに、ニートやひきこもりなど困難を有する若者への相談体制の充実や、就学・就労など社会参加に向けた支援などを推進します。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
地域の遊び場や体験学習の場への評価 (地域の小中学生はさまざまな遊びや体験学習をする場や機会に恵まれていると感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)	55.3% (2012年度)	65%
学校の教育活動に対する満足度(注)	27.6% (2012年度)	50%

(注)保護者を含む市民の満足度